第１３回　埼玉県新型感染症専門家会議　概要

１．日時：令和２年８月２０日（木）１７：００～１９：００

２．会場：危機管理防災センター本部会議室

３．委員（敬称略　五十音順）

岡部　信彦　　川崎市健康安全研究所　所長

金井　忠男　　埼玉県医師会　会長

坂木　晴世　　国立病院機構西埼玉中央病院専門看護師

松田　久美子　埼玉県看護協会　会長

光武　耕太郎　埼玉医科大学国際医療センター　教授

４．県側参加者

大野　元裕　　知事

山野　　均　　県民生活部長

森尾　博之　　危機管理防災部長

関本　建二　　保健医療部長

濱川　　敦　　都市整備部長

星　　永進　　保健医療部　参事

本多　麻夫　　保健医療部　参事

岸本　　剛　　衛生研究所　副所長

５．主な意見

ア　現状の分析・評価について

○　新規陽性者の推移は、フラットになり、減少傾向になりつつある。（岡部委員）

○　県が新規陽性者の増加の勢いを抑えるような取組を行ったため、ピークを遅らすことができているのではないか。このまま減少に転ずるかどうかは、もう少し様子を見る必要がある。（坂木委員）

イ　ステージⅢに備えて取り組むべき対策

○　国の「新型コロナウイルス感染症対策分科会」が示した６つの指標については、機械的ではなく、地域の実情に応じて総合的に判断するものである。（岡部委員）

○　６つの指標のうち「病床のひっ迫具合」を判断する場合には、特に重症者の患者の受入が可能な状況なのか、医療現場の意見を十分に取り入れて判断するべきである。（岡部委員）

○　現場では、中高年の男性が外で感染し、家庭内で女性に感染するケースが多くみられる。外から家庭内に感染させないよう、きちんと対策を行う必要がある。（坂木委員）

○　スポーツジムでは、現在では陽性者が出ていないことを明確にし、陽性者が多く発生した施設と同等に扱わないよう留意するべきである。また、トレーニング機器を使うときよりも、むしろ、更衣室で三密の状態になることなどの方が問題であることを、もっと強調して具体的に発信した方が良い。（岡部委員、坂木委員）

○　部活動の中には、１つのボールを大人数で触ることや、接触プレーがあるケースもある。また、大人数が更衣室で着替える時や、部活動の帰りに寄り道をして、感染がおこりやすい三密の状況ができる可能性がある。どのような場合に、クラスターが発生しやすいのか、部活動やその前後のシチュエーションも含めて感染リスクを評価し、対策を打つべきである。（坂木委員）

○　暑い中、マスクを着けて登下校することは、熱中症のリスクがあるので、そうしたことがないよう、現場に徹底するべきである。（岡部委員、坂木委員）

○　クラスターが発生した病院では、ＰＰＥ等が十分に確保されていないケースがあった。特に中小規模の病院は十分な量の備蓄をしていないところが多いので、必要な備蓄ができるよう支援してほしい。（松田委員、坂木委員）

○　ＰＣＲ検査の利便性を向上させるよう、隣接する発熱外来ＰＣＲセンターの相互利用できるようにしてほしい。（光武委員）

【県の対応】

●　８月２４日（火）に開催された「第２７回新型コロナウイルス対策本部会議」において、今回各委員からいただいた意見を紹介した。

ウ　埼玉県におけるイベントの開催制限について

○　一度基準を緩和した後に再度厳しくすることは難しいため、今回の決定は妥当である。（岡部委員）

○　段階的に参加人数を引き上げたいというのは当然あるのだろうが、現状は難しいのではないか。（光武委員）

【県の対応】

●　県内の感染状況及び委員の意見を踏まえ、令和２年８月２４日、以下のとおり協力要請を行った。（８月２４日開催　第２７回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。）

（プロスポーツイベント等（全国的移動を伴うもの））

ア　参加人数及び収容率は、国が示す目安を上限とする。

イ　イベント主催者及び施設管理者に対し、次のことを求める。

・　入退場時の状況や観客輸送なども含め感染防止対策について検証しながら、段階的に参加人数を引き上げること

・　参加人数及び感染防止対策を対外的に宣言し、開催結果を検証の上、改善や見直しの内容等を発表すること

・　国及び県の接触確認アプリを必ず導入すること

（その他のイベント）

ア　国が示す目安に準じる。

イ　大規模イベントでは、イベント主催者及び施設管理者に対し、次のことを求める。

・ 国及び県の接触確認アプリを必ず導入すること